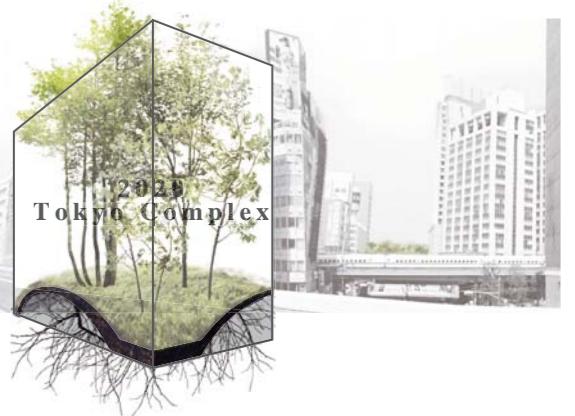




数寄屋橋の系

— 2020 年 多様化する都市の中に根を下ろし
人々と都市の間で起こり得る豊かな経験を生む舞台となる建築を提案する —



『都市の中に生まれる幾つもの場所性』

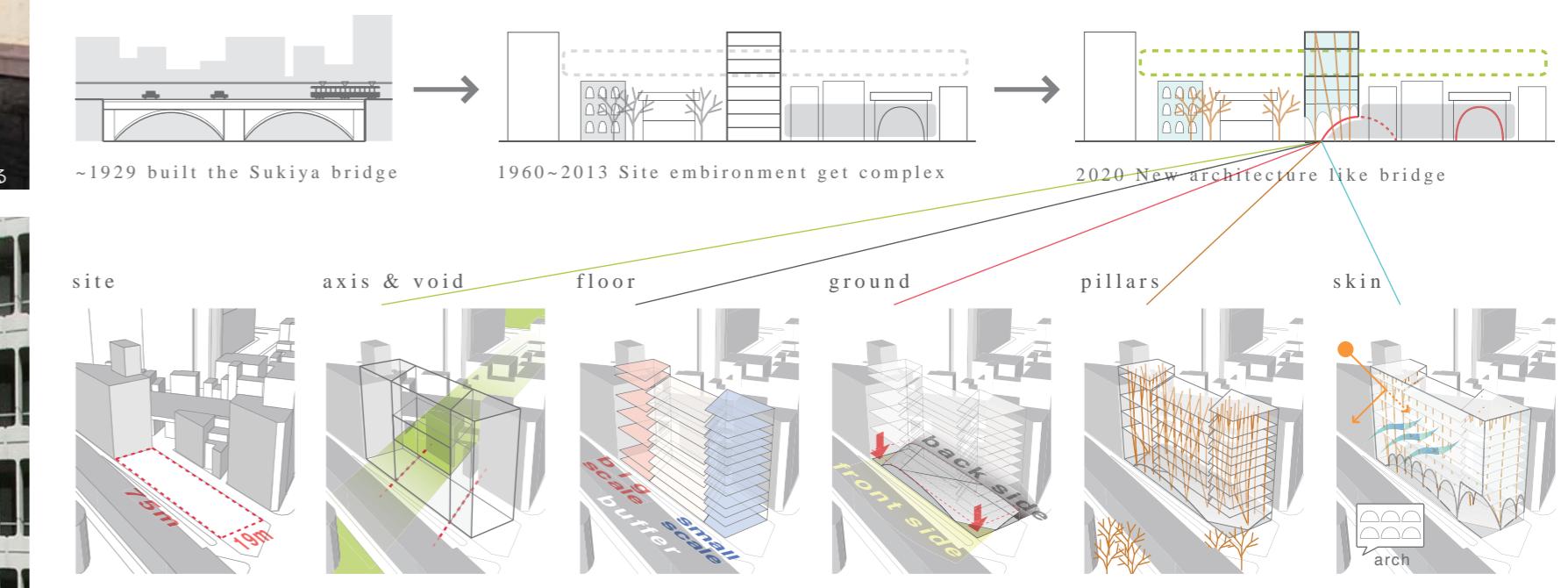
建築は、その時代毎の思想が表出する媒体として都市に配置され続けてきた。時と共に記憶と情報は集積し、都市環境はより複雑に、より混沌とした状況を呈してきた。東京はその最たる場所である。人々存在した歴史的な場所性は都市の発展と共に解体され、同時に、多くのより微小な領域で新たな場所性が認識できるようになった。こうした細かで多様な状況を引き受ける事で、東京の土地に根を下ろす建築を想像する。



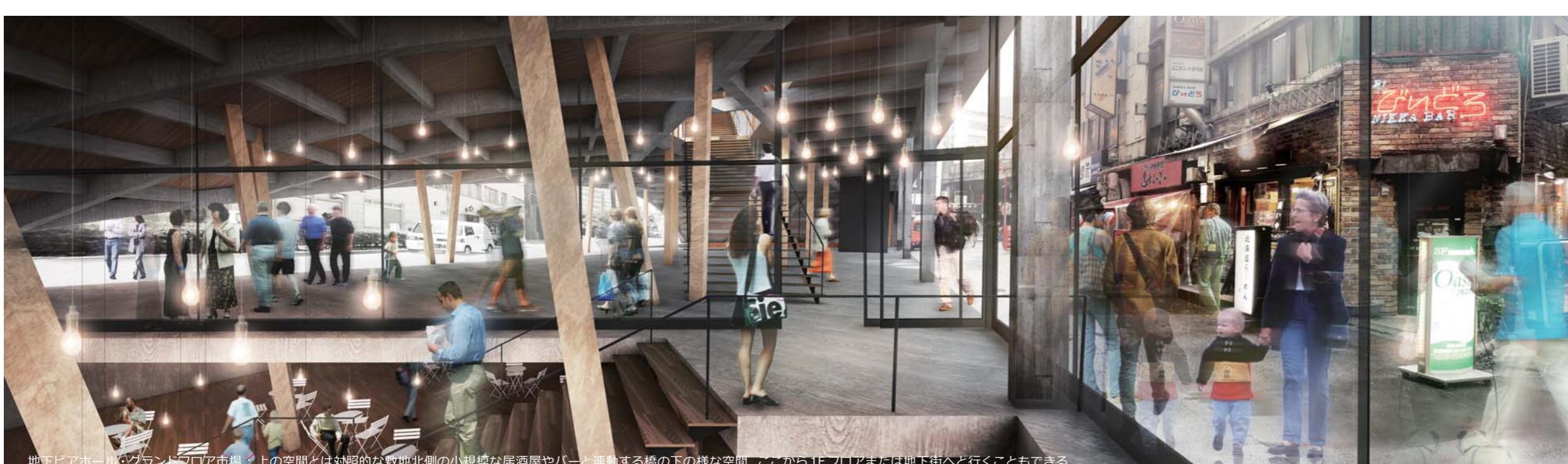
かつて江戸城外堀が街を分節し、二連アーチの石橋が架かっていた敷地。1959年に高速道路が建設され、JRの高架と挟まれた事で街区には大規模開発の手が及ばず、現在でも低いビルや小規模な店舗が混在している。また周囲には公園の木々が繁茂し、再開発に伴った公開空地が広がる等、複数の異なる場所性に隣接している。

『現代の微小な都市環境を集積することで建ち現れる 2020 年の ” 橋 ”』

私達は、敷地周辺の多様で小さな場所性を集積した建築を提案する。都市を歩くと、例えば明るい通りから一変して薄暗い路地に入り込んだり、アーチの続く風景を見て歴史を回想したり、公園の緑を臨む開放的なカフェで癒されたり、通勤途中で偶然にも都市のダイナミックな広がりを見発したりできる……。敷地周辺に独立して存在するこれらの体験を、場所毎の特徴に個別に応答しながらもひとつの建築として集積させる事で、内部空間においても成立させる。かつて象徴的な役割を担っていた数寄屋橋の様に、2020年の都市像を象徴する、人々と都市の間で起こり得る豊かな経験を生む舞台となる建築を目指す。



中間棟2Fから東側アントラーンを見下ろす。木立の上に柱とフキンのアーチが、街路と公園の樹木と運動する。



地下ピアホール・グランドフロア市場 上の空間とは対照的な敷地北側の小規模な居酒屋やバーと連動する橋の下の様な空間。ここから1Fフロアまでは地下街へ行くことも可能。

『都市と連動する建築空間と絡み合うプログラム』

